

資料不足でもあるので、内容の検討は、さらにくわしい調査がなされてからにしたい。

このようなクリ-コナラ群集の上級単位について奥富(1967)は、アカマツ群団にまとめており、宮脇他(1971)は、イヌシデ-コナラ群団に包含している。クリ-コナラ群集は、ヤマツツジ-アカマツ群集などアカマツ林と多くの共通種をもっているこ

とは事実であるが、コナラ、イヌシデ、ガマズミ、クリ、カマツカ、ムラサキシキブなど多数の種により他の群団と区分されるので、イヌシデ-コナラ群団にまとめられるものと思われる。又、立地環境から見ても、アカマツ群団とは別にすべきものと考え

(以下次号へ)

〔植物ニュース〕

37. ミツバツツジ類 *Rhododendron* Sect.

Sciadorhodion

1979年5月21日、松本で行なわれた日本植物分類学会大会に参加した後、島々谷を鮎留まで歩いた。その一つの目的はこの谷にミツバツツジ類を見つける為だった。

北アルプスの東面に沿って北からサイコクミツバツツジが南下し、南からはトウゴクミツバツツジなどが北上しているが、松本附近でその分布がよくわからなくなることが前から気になっており、以前にも梓川沿いを見て廻ったことがあるが、ミツバツツジ類を見つけることはできなかった。今回の島々谷も同様で、それが生えていそうな所はホツツジで占められていた。

そこで地元の方々に教えていただきたいのだが、梓川およびその支流にミツバツツジ類が生えているだろうか? 「どこそこに生えている」という返事のみを求めているのではなく、「そういえば俺も見たことが無い」という情報も同じ重要さをもって期待しているのである。植物地理では「ある」ことばかりでなく「ない」という確認情報も是非欲しいのである。こういう質問はどうも間がぬけていてやりにくいのだが、敢て本誌をかりてやってみる次第である。

(金井弘夫)

38. エンビセンノウ *Lychnis wilfordi* Maxim.

1958(S.33)年の調査では長門町の大門牧場(現在、姫木平別荘地)は植物の宝庫であった。ズミ、ツノハシバミ、ミズナラ、カンボク、シラカンバ、ヤエガワカンバ、オノエヤナギ等の林があり、その間溪流が流れ、草地にはレンゲツツジ、イボタノキ、ヒョウタンボク等の低木が、湿地にはザゼンソウ、モウセンゴケ、そして河岸にはエンビセンノウ、シラヒゲソウなどがあり、中でもエンビセンノウの群生

とその深紅色の花弁には目をみ張るものがあった。上小では他に記録がなく、貴重な生育地を1971(S.46)年からの開発により失なって終った。なお同地の一部には1972(S.47.6)年故竹内太郎氏により確認されたツキヌキソウが長門町教委の指定文化財として保護されている。

(望月精一)

39. ツガザクラ *Phyllodoce nipponica*

Makino

昨1979年7月23日木曾駒ヶ岳で花が上に向かって開いているツガザクラの1群を見つけた。この形のは未だ報告されていないようであるから、これをソラムキツガザクラ *form. ascendens* H. Okuhara として報告する。

(奥原弘人)

40. シライトソウ *Chionographis japonica*

Maxim とナツエビネ *Calanthe reflexa* Maxim.

1950年9月北安曇郡小谷村の北部でエビネ属の一種とシライトソウ属らしいロゼット葉の一株を見つけ、これを栽培していたところ花によって一種は翌年ナツエビネとわかり、他は昨年になってシライトソウとわかった。この両種は北安曇郡では報告されていない。また後者は北信でも記録されていないので、こごにこれを報告する。このほか白馬村ではシロバナタムラソウを採った。

(奥原弘人)

41. シャジクソウ *Trifolium lupinaster* L.

本種は北海道、本州(長野、群馬)~欧州、北亜に分布し、飛び越し型分布(横内斎1976)にあたる。長野県内では浅間火山、筑摩山地、南アルプス北端(浅心坂)の分布が知られている。美ヶ原高原には多産する。私たちは1974年6月9日東筑摩郡波田町里川せぎ(900m)の岸で一度採集したことがあり、それより上部の分布の確認を急いでいた。1979年6月10日、同町二の沢から唐沢への調査中、ハト峰から北々東へのびる尾根上(1644.5m)で本種を採集した。

(松田行雄、横内文人)